

ヨリ勞資両者更ニ會見ノ上別記回答ヲ爲シタルニ組合  
側ニ於テモ承認圓滿解決セリ、  
右及申(通)報候也

## 澁谷町民諸彦に訴ふ

日本無線の傷害事件に就いて

省線エビス驛下日本無線電信電話株式会社職長小杉繁藏なる者は自己の  
職權を乱用し彼にへつらう職工に對し作業上有利の立場に置き多くの収入を採らうの  
之を見合として彼の意に盲従せざる職工に對し「経済的に精神的に極度の圧迫をなし  
つゝあつた。之が深き原因をなして去ル大正十三年三月労働爭議が勃發し彼の排斥  
問題となつたのであるが会社重役加能小島の丙氏が充分なる注意を以つてし  
將來斯く事の發生せざる事を堅く約し「圓滿な了解を告げたのである

### 小杉職長の労働組合員壓迫

其後不都合にも会社が労働組合を認めて居るにも不拘、職工入職の際は組  
合に加入せざる事を契約せしめ従前よりの組合員に對して「リーダー等労働組合が何と  
グズク言つてもオレはビクとしません」とゴウゴし常に兒分を擁護し極度の圧迫をつゞけ、  
あつたが組合員はよく忍んで今日迄事なく来たつたのである。

### 共済會總會の大混乱 組合幹部池君の大負傷

我利心の外に何物も有せぬ小杉は共済會と彼の支配下に置かんとして兒分  
松本に命とり運動せしめ去ル二十四日澁谷俱樂部に於て總會を開催する事となつた當日